

令和4年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価 後期自己評価書

南アルプス市立若草小学校
校長 時田 直人

1 学校評価について

1 学校評価の目的 …学校評価ガイドライン（H28改訂版）より

- ①各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ②各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 評価方法

(1) 実施期日 令和4年11月中旬

(2) 評価・アンケート項目

学校教育目標・目指す学校像・めざす児童像・めざす教職員像等を指針とし、以下の分類で項目を設定し、教職員による自己評価、児童・保護者に対するアンケートを実施した。

- ①教職員自己評価：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校経営」「学校行事」「研究・研修」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」
- ②児童アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「携帯電話」
- ③保護者アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校行事」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」「携帯電話」

(3) 回答方法

Google Forms による Web 上での回答とした。

(4) 分析・考察に向けての評価基準

①各項目について、下表の4段階で評価・回答を得た。4と3の評価・回答を合わせて肯定的意見（プラス評価）、2と1の評価・回答を合わせて否定的意見（マイナス評価）としてとらえた。

4：そう思う	3：どちらかというと思う	…肯定的意見（プラス評価）
2：どちらかというと思わない	1：そう思わない	…否定的意見（マイナス評価）

②各項目の平均値（少数第1位まで）を算出し、下表のように設定したカッティングポイントを判定基準ととらえるなかで、分析・考察につなげた。

[カッティングポイント]

3. 0以上	… A（良好である）
2. 9～2. 5	… B（概ね良好ではあるが、工夫・改善の余地がある）
2. 4～2. 1	… C（工夫・改善が必要である）
2. 0以下	… D（根本的に工夫・改善を図る必要がある）

※上記（1）の評価項目について、（2）の評価基準に照らし合わせながら、各学年による検討を行い、それを基に全体を通しての分析・考察を実施することにより評価結果とした。

2 後期自己評価結果（自己評価書）

1 本年度の学校教育目標、めざす学校・児童・教職員像について

【学校教育目標】

- ①かしこい子ども
- ②美しいものに感動する子ども
- ③思いやりのあるやさしい子ども
- ④たくましく生きぬく子ども

(1) めざす学校像

- ①児童にとって楽しく希望にあふれ充実した学校
- ②保護者にとって信頼できる学校
- ③教師にとって創意が生かされ働きがいのある学校
- ④地域にとって開かれた学校

(2) めざす教職員像

- ①使命感と情熱にあふれる教職員
- ②児童と真剣に向き合い、心を理解できる愛情あふれる教職員
- ③豊かな人間性と教養、専門的知識を兼ね備えた教職員
- ④保護者及び地域の期待に応え、信頼される教職員

(3) 児童の具体目標

- ①授業に集中する子ども（話を最後までしっかり聴くことのできる子ども）
- ②気持ちのこもったあいさつができる子ども
- ③一生懸命にそうじができる子ども
- ④体育や休み時間に元気に活動できる子ども

2 教職員自己評価、児童アンケート、保護者アンケートについて

自己評価・アンケートの各項目内容および項目数については、調整・精選し、焦点化・明確化を行い、小中一貫教育にかかわる評価の観点を追加した。なお、保護者アンケートを年間の総括として実施した。

3 評価と改善策

(1) 評価の全体的な概略

①職員による自己評価

- ・全12項目においてA判定であった。

本校の教職員が、学校教育目標やめざす学校像等（以下、学校教育目標等）を十分に意識して教育活動（職務）の遂行に努めていることが確認できた。

- ・前期の評価結果よりすべての項目において0.2～0.7ポイント上回った。

今年度もコロナ禍においてもできる限りの教育活動を実施している。教職員一人一人が前期の結果を踏まえ、学校教育目標等の達成に向け内容レベルの一層の向上を目指した結果の現れであると考えられる。

- ・評価が低い（3.5）項目がある。

⑧「特別支援教育の充実」については、きめ細かい指導により、前期よりも0.4ポイント上昇した。しかし、突発的な対応を迫られる場面に対する校内支援体制に不十分な点がある。今後、校内研究等を通じて特別支援教育についての理解を一層深め、個々の力量を上げるとともに、人的確保も視野に入れ特別支援教育を充実していく。

②児童によるアンケート

- ・全4項目においてA判定であった。(携帯電話に関する項目を除く)

コロナ禍ではあるがいずれの項目も前期と同程度の評価となった。多くの児童が学校生活に対して前向きに望んでいる姿勢がうかがわれる。

- ・評価が低い(3.4)項目がある。

②「学校の授業はわかりやすいですか」の項目については、前期と同様やや低い評価となった。支援スタッフの協力も得る中で個別対応を充実させ、授業改善に取り組んでいく必要がある。

③保護者によるアンケート

- ・7項目中6項目においてA判定であった。(携帯電話に関する項目を除く)

コロナ禍にあっても、保護者の学校に対する期待は大きく、確かな教育活動の実施が求められていることがうかがえる。

- ・評価が低い(2.9)項目がある。

③「家庭で学習する習慣が身についている」の項目についてはB判定、家庭の理解や家庭との連携・協力が必要不可欠である。今後も校内研究等を通じて、継続的に家庭学習の習慣化促進についての理解を深めていく必要がある。

以上が後期学校評価の全体的な概略であるが、この結果については、教職員全体で真摯に受け止め、共通理解をもって改善に努め、来年度の教育活動に生かしていきたい。

なお、携帯電話の項目については、市で統一した内容での調査の為、全体的な評価の概略からは除外してある。

(2) 分類毎による項目の評価と改善策

I 学校生活について [対象：教職員・児童・保護者]
【考察】 ・自己評価、アンケートともにA判定であり、概ね良好な学校生活を送られている状況がうかがえる。
【改善策】 ・子供どうしのつながりがさらに広がり、学校生活のいろいろな場(学習・遊び)で楽しいと感じるような取り組みをしていきたい。
II 学習指導について [対象：教職員・児童・保護者]
【考察】 ・自己評価、アンケートともにA判定であり、教職員が前期以上に教材研究を重ね、授業改善に取り組んできた成果が反映されている。今後も、不断の授業改善を怠らない。
【改善策】 ・今後一層、PDCAサイクルを意識した普段の授業改善に取り組んでいく。また、小中一貫教育の実現に向けて、教育課程の見直し・検討を重ねる。

Ⅲ家庭学習について [対象：教職員・児童・保護者]
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習強化週間等の取組もあり意識が高まってきている。一方、保護者アンケートでB判定であり、家庭での自主学習の取り組み状況については個人差が大きく、家庭学習のとらえ方には、保護者によっても違いがみられる。
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習については、家庭の協力も得ながら連携して学習習慣が身につけられるように、「家庭学習習慣化促進事業」の成果を参考にしながら進めていく。
Ⅳ生徒指導について [対象：教職員・児童・保護者]
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、アンケートにおいてもA判定であり、おおむね良好である。 ・教職員は児童理解に努め、いじめや問題行動等の対処も適切に行っている状況がみられる。
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校での児童の様子や指導した内容を適時に家庭へ伝える等、学校と家庭の連携を今後も継続的に行い、同一歩調で児童の成長を支えていく。
Ⅴ学校経営について [対象：教職員]
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・いずれの項目についてもA判定であり、真摯に取り組んでいる状況をうかがえる。 ・小中一貫校としての取組、教科担任制の取組等、県下でも先進的な実践ができた。
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について、校内研究でも計画的・継続的に取り上げ、全教職員の力量を高め一層充実した教育活動を進められるよう、広く支援の行き届く学習環境の構築を目指す。
Ⅵ学校行事について [対象：教職員]
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・A判定の評価であった。 ・コロナ禍であっても感染症対策を十分確保し、できる限りの教育活動を行うという校長の方針が浸透していることがうかがえる。
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・今後も丁寧な説明と情報発信に努め、理解を得ながらできる限りの教育活動を行う。
Ⅶ研究・研修について [対象：教職員]
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・A判定の評価であった。 ・校内研究を土台として、GIGA研修や小中一貫への取組も精力的に行い、良好な校内研究の運営がなされている。
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・今後も教職員全体で共通理解を図り実践を積み重ねていく。
Ⅷ施設・設備 安全管理について [対象：教職員・保護者]
【考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・A判定の評価であった。 ・老朽化に伴い不備等あるが、施設・設備を大切に活用している状況がうかがえる。

【改善策】

- ・安心・安全な新校舎の実現に向け、関係者・諸機関と密に連携して取り組む。
- ・交通安全対策として、継続して「見守り隊」の協力を頂き、登下校の安全確保に努める。

IX家庭・地域との連携について [対象：教職員・保護者]**【考察】**

- ・自己評価，アンケートともにA判定であり，概ね良好である。
- ・学校メールや各種たよりを通じて情報提供を頻繁に行った。

【改善策】

- ・コロナ禍のため，地域の方々を学校にお招きする機会が減少しているが，相談及び要望に対応する場面を，情報共有・発信のチャンスとらえ，良好な関係作りの一助とする。

携帯電話について [対象：児童・保護者]**【考察】**

- ・所有率は，児童49.2%，保護者35.9%であった。
- ・家庭でのルール決めについては，児童81.4%，保護者92.8%という結果であった。
- ・ルール決めについて，保護者は決めているつもりでも，児童はあまり意識していないことが考えられる。家庭内での共通理解が必要である。
- ・インターネットやSNSを利用する際の注意点については，家庭と連携しながら，より有効で安全な利用の仕方について，折に触れ指導していく。